

「阿蘇わくわく自然体験塾」

[主催] 国立阿蘇青少年交流の家

[後援] 熊本県教育委員会

[期間] 【第1回】平成22年7月6日(火)

【第2回】平成22年8月21日(土)

【第3回】平成22年9月16日(木)～17日(金)

[会場] 国立阿蘇青少年交流の家とその周辺

[参加者] 【第1回】生徒29名, 引率者15名, ボランティア12名

【第2回】生徒30名, 保護者24名, 引率者15名, ボランティア16名

【第3回】生徒29名, 引率者14名, ボランティア17名

[検討委員会委員]

学校法人 九州ルーテル学院	九州ルーテル学院大学	教授	石山 貴章 氏
熊本県教育庁	高校教育課	特別支援教育室	指導主事 宮本 信高 氏
熊本県立大津養護学校	校長		西川 高光 氏
熊本県立大津養護学校	教諭		岩切 昭仁 氏
熊本県立大津養護学校	教諭		徳永 照人 氏
熊本県立大津養護学校	養護教諭		有働美保子 氏

1 趣 旨

特別な支援を要する児童・生徒を対象に、阿蘇の大自然の中で自然体験や社会体験、交流体験を通して豊かな人間性の育成を育む。

2 目 標

- (1) 自然体験や生活体験をとおして、自主的に活動しようとする態度を育てる。
- (2) 活動や生活の場面において、一人一人が自分の体力に応じた活動を進んで取り組もうとする力を育てる。
- (3) 仲間やボランティアスタッフと協力して取り組む活動を設定し、思いやりの心を育てる。

3 事業展開

(1) 研修プログラム

第1回	7月6日(火)	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00										
		大津養護学校出発	移動	出会いの集い	ウオークラリー 施設探検	昼食	別れの集い	交流の家出発	移動	帰りの会・下校	学校到着後								
第2回	8月21日(土)	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00										
		大津養護学校出発	移動	出会いの集い	牧場での動物 ふれあい体験 バター作り	昼食	フィールドビンゴ	阿蘇の水基めぐり	別れの集い	学校到着後下校									
第3回	9月16日(木)	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00				
		大津養護学校出発	移動	出会いの集い	オリエンテーション	昼食	出発準備	草千里トレッキング・ウオークラリー		休憩・夕べの集い	夕食	修学旅行について 知っておこう	入浴	就寝準備	消灯				
	9月17日(金)	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00											
		起床	朝の集い	朝食	宿舎清掃	退所点検	ふりかえり	お別れセレモニー 閉会行事	交流の家出発	移動	昼食・下校	学校到着後							

(2) 目標達成のための手立て

① 阿蘇の特性を生かし安全に配慮したプログラム

ア 湧水巡りや草原など地域の活用

第2回は竹原牧場での動物ふれあい体験やバター作り、また阿蘇神社水基めぐりを行うことで地域の文化と自然に触れながら活動するプログラムを取り入れた。第3回は草千里にて自分にあったコースを選択し、草千里トレッキングウオークラリーを行った。

イ 安全面に配慮した活動

すべての活動にボランティアスタッフ10名以上参加してもらい、班に2名以上配置することで生徒の様子や行動について配慮するとともに、自動車が通る場所等では交通整理を行うなど安全面に配慮した。また、養護教諭と看護師を配置することで速急な対応ができるようにした。



動物ふれあい体験の様子

② 学校・大学と連携したプログラムの開発

ア 熊本県立大津養護学校の先生と事前の打ち合わせを行い、検討委員会で日程や活動について検討し、充実したプログラム開発につとめた。

イ 九州ルーテル学院大学の学生・熊本大学の学生と連携し、事業前には事前研修会を行う等事業が潤滑に行えるよう配慮した。

ウ 事業全体の評価と今後の事業運営に生かすため、九州ルーテル学院大学の石山教授に検討委員会の委員長になっていただき、ボランティアの派遣から事業の調査まで依頼し、アンケート調査結果から事業の成果と課題が見えてきた。

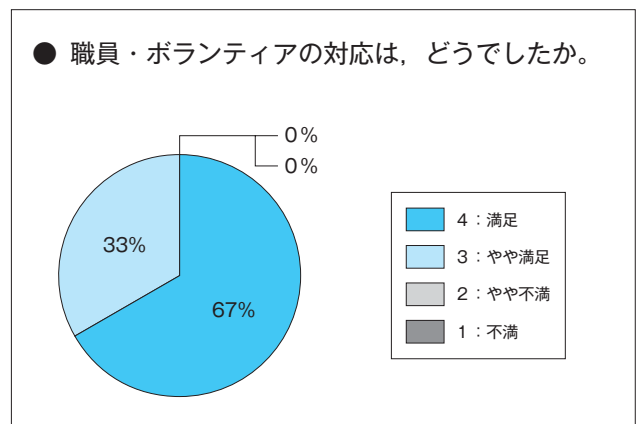
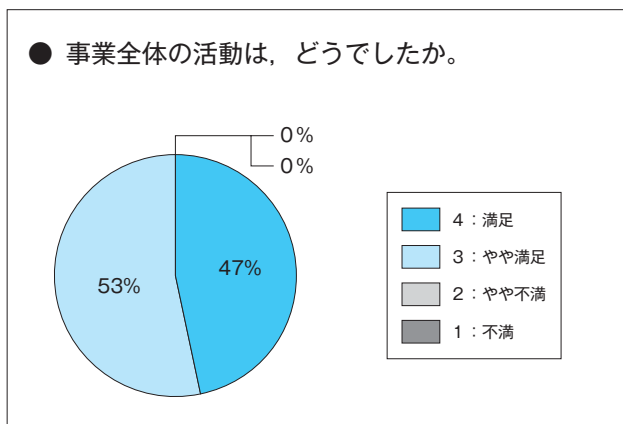
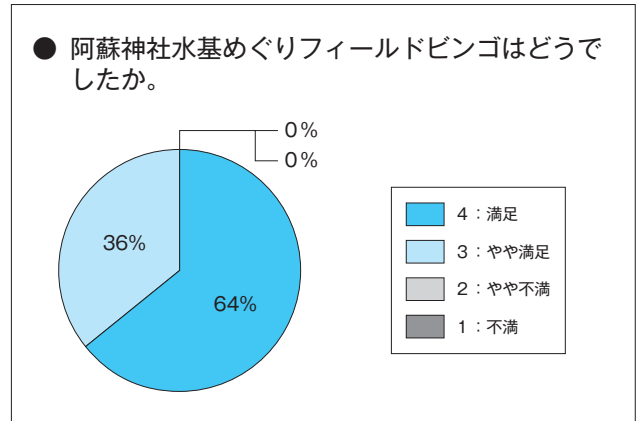
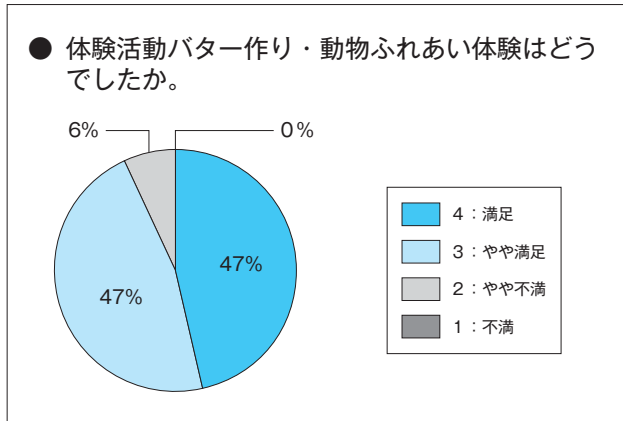


阿蘇神社水基めぐりフィールドビンゴの様子

4 結果

アンケートの結果は次のとおりである。

【保護者】



【保護者の声】

- バターを作ることを通して自信につながった。達成感のある活動がよく設定されていた。
- 友達が牛を触っているのを見て自分も牛を触ろうとするなど、苦手な動物に対して積極的に関わろうとする姿が見られた。
- 動物にふれあったり、湧水を飲んだりする体験を通して自分の思いを言葉（気持ちいい等）で表現することができていた。
- 小さい頃は苦手だったこと（集団の中で「待つ」「音が苦手」「知らない人が多いことに対する不安」）等がずいぶん平気になっていることに驚きました。
- 親子で一緒に活動することで我が子の成長をより具体的に知ることができた。
- いつもできないことがボランティアの学生さんと一緒にあれば話をしたり活動できたりすることに驚きました。

【引率教員の声】

- 回数を重ねるごとに、お互いにとって中身の濃い体験学習になった。
- 限られた条件の中で楽しい活動を体験することができ、生徒も保護者も喜んでた。
- 年間を通して3回も活動できたことが良かった。
- 今後も、ぜひ継続したプログラムを計画してほしい。
- ボランティアの方々には本事業の目的を十分に理解させることや、事前学習を充実させることで、さらに充実した事業になると考えられる。

○障害の軽い生徒と重い生徒と一緒に活動するので、今後は内容をしっかりと検討し、さらに安全で充実した内容を考えていかなければいけないと思う。

【ボランティアの声】

○サークル活動では、ダウン症児と関わっているが、今回、他の障害のある生徒とたくさん接することができたことが貴重な体験となった。

○今後の学生生活の学びの中で、どのように支援をしていけばよいのかを考えていくきっかけを作ることができた。また大学で学んだことの実地検証につながった。

○生徒と仲良くなれるかどうかの不安があったが、積極的に関わっていく中で徐々に解消することができた。

○障害のあるなしに関わらず、一人の人間として関わることの大切さを感じた。

○生徒のひたむきさや努力を目の当たりに感じることもできた。



草千里トレッキングウォークラリーでの集合写真

5 成果と課題

(1) 成果

- ① 様々な体験活動や食事など活動を共にすることで、参加者とボランティアの関係を深く結びつけることができ、学校の枠を超えた交流を行うことができた。
- ② 検討委員会や事前打ち合わせなど、ルーテル学院大学の石山教授や大津養護学校の先生、熊本県教育委員会と連携することにより、特別な支援を要する生徒たちが普段できない自然体験活動を安全に行うことができた。
- ③ それぞれの活動で生徒の実態にあわせた活動とコースを設定することで、個に応じた活動をすることができ、成就感を味わうことができた。
- ④ 家族との交流・保護者同士の交流も深まり、保護者にも自然体験活動をするきっかけになった。
- ⑤ ボランティアの学生の中には初めて参加した生徒も多く、特別な支援を要する生徒との関わりを通して徐々に慣れ、積極的に関わる姿が見られた。

(2) 課題

- ① 安全を確保するためには、指導者やボランティアの十分な人員確保が必要である。
- ② 障害の程度により活動において想定外の時間がかかったこともあったため、より柔軟性を持たせたプログラムを作成する必要がある。
- ③ 特別な支援を要する生徒についての理解を深めるために、ボランティアの事前研修をさらに充実したものにする必要がある。